

都立多摩図書館の地域資料（都政・多摩資料）とそのサービス

●経過

1987年5月 都立多摩図書館開館

- ・都立多摩図書館は、立川・青梅・八王子にあった旧都立3館を統合する形で開館。多摩地域の協力事業の拠点として、都立八王子図書館の協力事業、都立立川図書館の雑誌を中心とした逐次刊行物、青梅図書館の郷土行政資料のサービスを引き継ぐ。

2002年1月 都立図書館あり方検討委員会最終報告「今後の都立図書館のあり方」

- ・都立多摩図書館のサービスの柱は日比谷図書館から移した児童・青少年資料、作品を中心とした日本文学、多摩地域のみに限定した多摩資料とされた。

2006年8月 「都立図書館改革の具体的方策」

- ・多摩資料係は廃止、中央図書館で「都市東京情報サービス」として集中的にサービスを行うこととなった。

2008年12月 都立多摩図書館の都政・多摩資料を都立中央図書館等へ移送

- ・都立1点所蔵のものは都立中央図書館に移管。重複資料は外部倉庫に一時保管。

2009年10月 再活用通知

- ・外部倉庫保管分（中央図書館との重複資料）を都立中央に移し、「再活用」として必要な図書館に提供する旨の通知。

●資料およびサービスの特徴

- ・都立多摩図書館の地域資料は、かつての都立青梅図書館時代から営々と築き上げてきたもので、多摩地域だけでなく、地理的・歴史的につながりの深い埼玉、神奈川、山梨など周辺地域をも対象に収集。都立図書館でなければ出来ない広域的な範囲を設定し、多方面に働きかけ精力的に資料収集に努め、多摩の地域で利用に供してきた。
- ・完全には揃っていないが、都立多摩図書館にしかない昭和40年代に東京都建設局で出した「三千分一地形図」や多摩地域の古い電話帳など多摩地域に関する資料も充実、古書店から精力的に購入した既刊書も多く所蔵していた。
- ・各新聞の多摩版を切り取って製本したコレクションは、市販のマイクロフィルム（地方版）よりも容易に紙面をみることができ、立川地域版という限定されたものではあるが、ほかにはない貴重なものである。
- ・「永年保存」を念頭に、取扱い注意の資料は中性紙容器に入れるなど資料保存にも力を注ぎ、特に多摩地域の資料は、大量脱酸処理を計画的に実施した。
- ・都立多摩図書館で収集した新聞地方版、ローカル紙から情報を集めた「多摩地域資料刊行情報」（web版）を発行、多摩地域の資料収集のための基本ツールとして活用されていた。（都立中央図書館では新聞は都内版のためこの作業ができず作成中止となっている。）
- ・都政に関する資料も、各市町村の行政資料も、古い地域資料も1ヶ所で見ても、調べ、相談できる都立図書館の役割は大きい。地域の資料は当該地域の図書館にそろってはいるが、1ヶ所で他の地域の資料と比較・調査ができる場合は都立だけである。利用者としても多摩地区の各図書館をわざわざ回らなくても、都立多摩図書館に行けばこの地域のいろいろな様子が全て分かる。ここで調べられないものだけを、その地域の図書館に行けば良いので大変助かっている。都立中央図書館からの「取り寄せサービス」では一括して見られない。